

【第 39 回個別発表抄録】

若手児童心理司が子どもの認知検査等を意欲的に学べる研修プログラムの開発 — 北海道・札幌市児童相談所児童心理司基礎研修の試み—

糸田 尚史 (名寄市立大学)

1. 経緯

児童相談所長や児童自立支援施設長などを経て現在は藤女子大学人間生活学部で教員をされている小山和利教授（臨床児童心理学）より、名寄市立大学保健福祉学部で教員をしながら今も週に1回は日本最北の児童家庭支援センターにて子どもの認知検査等に携わっている筆者にも、北海道釧路児童相談所では元同僚同士で、同じ道庁OB、児相の元判定員でもあったことから、北海道・札幌市の児童相談所における児童心理司の研修会の講師として参画の要請をいただいた。北海道中央児童相談所企画調整課（政策調整・研修）の南部葵主査からもご調整をいただき、2022（令和4）年度の北海道・札幌市児童相談所児童心理司研修は基礎研修（若手児童心理司対象）と応用研修（中堅児童心理司対象）の2つに分け、応用研修のほうを小山氏が、基礎研修のほうを筆者が、担当することとなった。

2. 方法

新型コロナウイルス禍のなか、対面による研修会はまだ難しく、Zoomを用いて、リモートによる開催となっている。基礎研修では若手児童心理司が子どもの認知検査等を意欲的に学べる研修プログラムとなることを意識しながら作成したPowerPointを活用し、これまで、①4月22日（金）、②6月24日（金）、③9月9日（金）、④10月21日（金）に、計4回の基礎研修を実施してきた。

今年度はあと2回、⑤12月23日（金）、⑥2月24日（金）が予定されている。

3. 内容

児童相談所児童心理司の実務者研修において基礎研修のパートを担わせていただくにあたり、学研の雑誌『月刊 障害児教育』に2005年4月号（Vol.382）から9月号（Vol.387）まで連載した「使ってみましょう！ いろいろな心理テスト：検査の実践的使用法と子ども理解」（毎号pp.48-49）の内容からスタートし、そこからさらに17年間の非定型発達児への心理検査や心理アセスメントにかかわる経験や文献などをふまえて新たに書き直した『社会保育実践研究 第6巻』（2022）所収の研究ノート「非定型発達児の心理判定」を紙媒体のテキストとした。そして、そこに文字だけではなく画像や動画も加えたPowerPointによるスライドを作成し、pdfにして配布するとともに、Zoomを使用して講義を試みた。

4. 結果

北海道・札幌市児童相談所児童心理司基礎研修という今年度の企画に対し、受講者からは「貴重なお話を沢山聞くことができよかったです」「幼少期から今に至るまでの心理検査に対する熱意を、お話を聞いて感じました」「映像を見ながら学ぶことができ、とても分かりやすかったです」「知能検査の検査内容と、ワーキングメモリーや前頭前野の仕組みを照らし合わせながら学ぶことで、検査の仕組みについて基礎的な理解を得ることができました」、役職者からは「毎回受講者も研修を心待ちにしております」「若い児相心理司の意識改革に大きな助けをいただいています」などといったコメントをいただくことができた。